

第131回

『君といつまでも』の 遺伝子を受け継ぐものたち

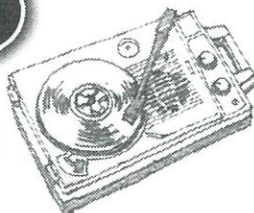
昭和41年末の紅白歌合戦で長髪を理由に落選の憂き目にあった初期GSの雄、ザ・スパイダースは、その紅白の1週前に新曲『なんとなくなく』(詞・曲共、かまやつひろし)をリリースしています。前作『夕陽が泣いている』から曲調が一転したのに合わせ、リードボーカルも堺正章から井上順に交替、初の試みとして間奏に台詞が挿入されました。

——困っちゃったなあ
君を好きになっちゃったんだ
ただ なんとなく

加山雄三ブームがまだ続いている昭和42年の春先、井上順がつぶやく告白台詞をリアルタイムで耳にした私は、『君といつまでも』の若大将効果を快く受け止めていました。

さらにその1年後、GSブームがピークを迎えていた昭和43年4月、フジテレビ『お昼のゴールデンショー』の放送が開始。平日の公開生放送の定番組といえば、『笑っていいとも!』が思い出されますが、そのルーツのような番組です。司会は前

田武彦、人気急上昇中のコント55号が毎日出演していることもあって、高校生だった私は、夏休みに入ると、



名曲カルテ

昭和歌謡と いつまでも

堀井六郎
絵 松本浦

「正午に8チャンネル」が日課となりました。

番組後半には「今週の歌」のコーナーがあり、ある日、お茶の間に夏向きの歌声が流れてきました。加山雄三と同じ東芝レコードから7月にデビューしたばかりの現役学生バンド、ザ・リガニーズ『海は恋してる』です。

リガニーズは、青島幸男、大橋巨泉、永六輔、野末陳平、山元護久ら、当時のテレビ・ラジオの世界を席巻していた早稲田軍団の後輩たちでした。ザリガニを洒落たバンド名など、早大バンドの面目躍如といったところで、放送作家の前武さんも笑顔で紹介していました。

カレッジポップスを先導・代表する1曲となりましたが、テーマ性(海と恋)、曲調(コード進行)、3連リズム、会話体の台詞挿入、終助詞「なあ」の使用など、後日、加山が自作曲かと思えるほど、したときれるほど、「若大将ソング」への愛情が満ち満ちていました。



——海も失恋すんのかなあ
涙をいっばいためるかなあ
だけどあふれだしたら
こまっちゃうなあ

だつて俺、泳げないんだもん

(右の台詞箇所も含め、作詞は当時、大森高校在学中だった垣見源一郎・筆名)

この当時のリガニーズのメンバー5人のうち内山修と常富喜雄は、数年後、吉田拓郎と近い「猫」というバンドの結成に参加。新田和長と武藤敏史は東芝レコードに就職、赤い鳥、オフコースなど、その後、活躍する数多くの東芝系ミュージシャンを世に送り出します。特に『海は恋してる』を作曲した新田は、息子に「雄一」(映画「若大将シリーズ」の主人公の名前)と命名するほど加山に惚れ込み、のちに加山の担当として『ぼくの妹に』『サライ』などを制作しています。

当コラムのタイトル『昭和歌謡といつまでも』は『君といつまでも』から拝借したのですが、この曲がどれほど若者たちの心を掴んでいたか。その後のポップス系昭和歌謡にとって、間違いなくルーツの一つだと思っからです。